

令和5年度

「市民性の育ち記録集 VolⅡ」



【春日野中 クリーン作戦】



【大谷小 資源回収】



【春日北小 みんなでおどろう】



【須玖小 夏祭り】



令和6年3月
春日市教育委員会

はじめに

春日市は、平成１７年度に全国に先駆けコミュニティ・スクールを導入し、令和５年度でコミュニティ・スクール導入１９年目を迎えました。

令和５年３月に示された「新たな教育振興基本計画」のコンセプトの一つに「２０４０年以降の社会を見据えた持続可能な社会の創り手の育成」が掲げられています。このことは、「よりよい地域社会実現のために、地域に関わろうとする意欲や行動力」と定義している「市民性」と通じるものであり、春日市で目指している「協働のまちづくり」につながるものであると考えます。

この「市民性の育ち記録集VolⅡ」には、児童生徒が市民性を発揮している姿が数多く収められています。また、地域づくりに寄与する人材の不足が危惧される中、「市民性の育ち記録集VolⅡ」では、中学校を卒業した高校生、大学生などの若い人材が地域づくりに積極的に関わっている姿も収録できました。彼らの言葉の端々にはこれまでお世話になった地域に対する深い愛情とともに、協働のまちづくりに向かおうとする熱い想いを感じます。

どうぞ、「市民性の育ち記録集VolⅡ」を手にとっていただき、一人でも多くの方と共有できることを願っています。

この記録集は、春日市コミュニティ・スクールの継続性と発展性に役立てられるよう、今後も発行してまいります。

令和６年３月
春日市教育委員会

目 次

○ はじめに	P 1
○ 目次	P 2
Ⅰ 春日市児童生徒の作文	
(1) 春日小学校	P 3
(2) 春日北小学校	P 6
(3) 春日東小学校	P 9
(4) 春日原小学校	P12
(5) 春日西小学校	P15
(6) 須玖小学校	P17
(7) 春日南小学校	P19
(8) 大谷小学校	P20
(9) 天神山小学校	P23
(10) 春日野小学校	P26
(11) 日の出小学校	P29
(12) 白水小学校	P32
(13) 春日中学校	P35
(14) 春日東中学校	P38
(15) 春日西中学校	P41
(16) 春日南中学校	P44
(17) 春日野中学校	P47
(18) 春日北中学校	P50
Ⅱ 寄稿文	
(19) 福翔高等学校(吉田光貴さん)	P53
(20) 福岡教育大学(富岡直弘さん)	P54
(21) 大濠高等学校(堀尾南月さん)	P55

春日市立春日小学校 第4学年1組 上地璃奈

春日小学校では5月に交通安全教室があります。4年生は、交通安全教室で、自転車の乗り方を学んだり、乗って練習したりすることができます。自転車の乗り方を教えてくれるのは、春日小学校の保護者や地域の方からなる「おやじの会」の方達です。私はもともと自転車に自信がなくてのることができませんでした。だけど、おやじの会の方が「乗れないの？大丈夫大丈夫！いつか乗れるようになるから、今は乗れていなくていいよ。こがなくていいからゆっくりいきな。」と優しく励ましてくれました。そのおかげで、自信がついて家でたくさん練習をしていたら、あっという間に乗れるようになりました。

私は今まで、片手で運転して、もう片方の手でジュースを飲みながらこいでいる人を見て、すごいなあと感じていました。しかし、自転車教室で、片手運転がとても危ないということを学習し、絶対に片手運転はしないようにしようと思いました。自転車に乗れるようになったのも、片手運転がだめだということに気付けたのも、全部おやじの会の方の優しいはげましと、説明のおかげです。おやじの会の方には、本当に感謝しています。これからもおやじの会の方のいろいろなイベントに参加して楽しもうと思います。

春日市立春日小学校 第4学年1組 吉田有志

5月18日に自転車教室がありました。自転車教室はおやじの会の方が自転車を用意してくれて、自転車の乗り方や、気をつけることを教えてくれました。心に残ったことは、おやじの会の方が優しく教えてくれたことと、おやじの会の方が作ってくれたコースがすごかったことです。コースに信号まで用意してくれて、わざわざそこまで用意してくれるなんて、優しいなあと感じました。難しかったことは、見えないところから車が来ることです。でも、そこも自転車教室で練習できたので、安心できました。これからは、周りを見て、ゆっくり進むことをがんばります。また、友達とどこかに行くときに横にならないように気をつけようと思います。そして、おやじの会の方が教えてくれたことを忘れずに、自分の地域を安全に走ろうと思います。この自転車教室で、おやじの会のかたが大好きになりました。



地域の人と盛り上がったソーラン節

ぼくは、夏祭りで、ソーラン節をおどりました。ソーラン節は、4年生の運動会でおどった曲です。動きがはげしく、つかれるので4年生の頃はとても大変でしたが、熱気があってカッコいいしおどっていて楽しいので、ぼくはソーラン節が好きです。

5年生になって、まつりの種目が出る人をぼしゅうしていることを知り、仲のいい友達と出場することにしました。夏休み前に練習し、本番をむかえました。本番が近づくとつれて気持ちが高まり、夏祭りのオープニングを盛り上げたいと思うようになりました。

いよいよ本番の日、ステージ横でスタンバイしているときは、きんちょうと不安でいっぱいでした。司会の人でステージ前に出て、思い切りおどりました。おどりはじめたら楽しくてきんちょう感もなくなりました。おどり終わった後は、やり切った気持ちで大きな達成感をもちました。お客さんから拍手をもらってうれしかったです。出てよかったなと思いました。

ソーラン節は迫力があって夢中になって練習できるので運動会にぴったりだし、見ている人を盛り上げてくれます。ソーラン節はこの地域でこれからも続けていってほしいと思います。



- 毎日の朝の見守りに、感謝したいです。理由は、見守りの人がいなかったら一年生とかが飛び出してしまう可能性があると思うからです。地域の方にはいろいろ感謝しています。(M.I)
- 朝立ってくれているおじいさんおばあさんに、挨拶をすると「おはよう、行ってらっしゃい」と言ってくれるのが嬉しいです。挨拶って大事だなと思います。他にもワイワイ祭りや自然教室など見守ってくれるときなどに感謝を伝えられたらいいなと思います。頑張ったことは、話しかけることです。話しかけてみると、笑顔で返事を返してくれたので、笑顔で話すって大事だなと思いました。(Y.S)
- いつも学校に行くときと帰るときにいてくれるおばあちゃんに感謝をしたいです。どうしてかという車が自分たちを轢いたり怪我させたりしないように旗みたいなのを持って「行っていいよ～」とか言って信号をわたらせてくれます。また、そのおばあちゃんがいると違うルートからも行けない雰囲気を出してくれてちゃんとした学校の決めたルートを渡れるから感謝したいなと思いました。これからはちゃんとしたルートを通りたいなと思います。(H.T)
- 朝に地域の方々が明るく笑顔で「おはよう」と言ってくれるので、苦手な朝が楽しい朝に変わりました。少し遅く家を出てしまっても急いでもときは、地域の方が腕時計を見てくれたり「焦らなくていいよ」や「頑張れ」など温かい言葉をかけてくれるのでとても嬉しいです。前に地域の方から「服可愛いね」と声をかけてくれて凄く嬉しかったです。金曜日には「上靴持って帰ってね」と言ってくれてとても助かっています。暑い日などには「お茶飲んでね」と私達のことを気にかけてくれて優しさを感じました。地域の方々は凄く優しく、私にとって温かい存在だなと思います！(Y.N)
- 私は朝見守りをしてくださっている方々に感謝しています。私がそう思った理由は2つあります。1つ目は安全に学校に行くことができるからです。最近くらいから不安だったけど見守りをしてくださっているから安全に学校に行くことができます。2つ目は笑顔で挨拶をしてくれることです。朝早起きで眠たかったり学校に行きたくないなと思っていたときに笑顔で挨拶をしてくれるのでとても元気で学校に行くことができます。(N.H)
- 私は朝の見守りに立ってくれている地域の方々に感謝しています。理由は毎朝早くから雨の日でも雪の日でも笑顔で立ってくれていて元気に挨拶をしてくれるし「今日行ったら夏休みだね！」や、「今日は寒いけど頑張れ！」などたくさん優しく接してくれるし自分からたくさん話しかけてくれるので地域の方々と仲良くなることができたし朝挨拶をされると嬉しい気持ちや元気になったりするからです。(K.M)
- 私は毎朝横断歩道のところに立ってくださっている地域の方を見てありがたいなと思いました。毎朝決まった時間に横断歩道のところに立ってくださっていて寒い日、雨の日、風が強い日も立ってくださっているのをみて、とてもありがたいなと感じました。そして「おはよう」「気をつけてね」「行ってらっしゃい」など挨拶をして下さったり、「寒いね」「風邪をひかないようにね」と話しかけてくれたりすると嬉しくなって元気に笑顔で挨拶したくなったり私も頑張ろうと元気をもらったりします。そこで挨拶されるとこんなに嬉しくなるんだな、挨拶って気持ちがいいなと学ぶこともできました。将来私が大人になったときは地域の人として小学生の人に挨拶をして同じように学んでほしいなと思いました。(S.Y)



- 朝の登校のときに早くから見守って「今日も頑張ってるね」と勇気づけてくれる地域の方たちにこれからもあいさつでお返ししたいと思います。(W.K)
- いつも朝の見守りをしてくださる方に挨拶したり、話しかけてもらって話をしたりしている。特に見守りをしている方には一番感謝している。学校に行くときに毎回会うし挨拶をしているからこれからも会ったときには元気よく挨拶していききたいです。(Y.S)

春日市立春日北小学校の実践

～第6学年「地域クリーン活動」～

第6学年は、地域連携カリキュラムの一つとして、自分の住む地域の清掃活動を行っている。6年間を通して地域から学び、地域への愛着を育んできた子ども達が、地域の一員として地域に貢献する活動を行うことで、地域に関わろうとする意欲や行動を育て、市民性を育成している。

【実践】

春日市立春日北小学校 第6学年2組 山田 跳月

「地域クリーン活動」

ぼくは、地域クリーン活動でナギの杜をそうじしました。そうじをして思ったことは、2つあります。一つ目は、ごみがなくなるというのは難しいと思いました。理由は、午前中、中学生が来てそうじしてくれたし、午後は、ぼくたちがそうじをしに行ったのに、ごみが全てなくならなかったからです。だから、ごみをなくすには、一人ひとりがごみを落とさないように意識したり、ごみを拾う習慣を作ろうと思いました。二つ目は、きれいになったら気持ち良いということです。終わった後、全部のごみは拾えなかったけれど、達成した感じがしてスッキリしました。だから、学校のそうじでも集中してそうじに取り組もうと思いました。



【事前打合せの様子】



【桜ヶ丘地区での活動】

春日市立春日北小学校の実践

～第4学年「みんなでおどろう 春日のおどり」～

第4学年は、地域連携カリキュラムの一つとして、自分たちの住む春日市には「わかい町かすが ふるさと音頭」があることを知り、踊りを通して地域の方と関わることにより、地域と関わりながら生きていこうとする意欲を育て、市民性を育成している。

【実践】

春日市立春日北小学校 第4学年1組 石井 はる

春日市の小学校で3番目に作られた小学校が春日北小学校だと初めて知りました。春日だけの踊りをみんなで楽しく、笑顔で2回も踊ることができたのが一番うれしかったです。これからは、地区の運動会や夏祭りで踊ることになったら、張り切って踊れるようにがんばります。振り付けの意味や踊りを作った人の思いを込めて踊ります。

春日市立春日北小学校 第4学年1組 中村 遙仁

春日北小学校は、ぼくたちが生まれる前にできたということを初めて知りました。わかい町春日ふるさと音頭の振り付けはむずかしくて、前に行ったり後に行ったりして、何がなんだか分からなくなってしまったところもあるけど、うまく踊ることができたのでうれしかったです。またいつか、地域の人といっしょに踊りたいです。



【須玖北自治会の皆様との学習】



【運動会「全校表現」の様子】

春日市立春日北小学校の実践

～第3学年「地域の中心 公民館」～

第3学年は、地域連携カリキュラムの一つとして、自分の住む地域の公民館の働きや役割を学習している。公民館での清掃や自治会長、館長の話を通して、地域のよさを捉え、公民館が地域の方の交流の場になっていることに気付き、より地域に関わろうとする態度を育てている。

【実践】

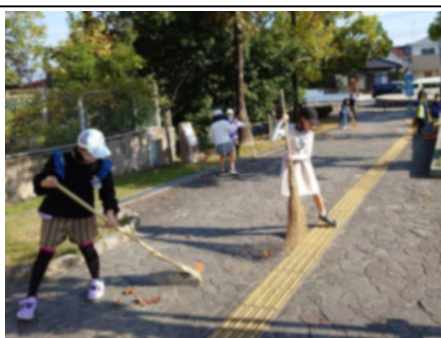
春日市立春日北小学校 第3学年1組 森 心愛

「公みん館の学習をして」

公みん館では、いろいろな行事が行われています。例えば、夏祭りでは、自ち会長さんたちがいろいろなじゅんぴをされているそうです。公みん館ではいろいろな行事があるので、いろいろな行事のたびに自ち会長さんたちには、たくさんのじゅんぴをしていただいています。ありがたいと思いました。そして、自ち会長さんたちは大へんなんだなと感じました。夏祭りに行ったときは、すごく楽しかったです。

わたしは、学習で公みん館に行き、外のそうじをしました。たくさん、あちこちに葉っぱが落ちていました。大へんだったけど楽しかったです。

わたしができそうなことは、公みん館の外にごみが捨ててあったらそれをできるだけひろったり、公みん館の人に会ったら元気よくあいさつをしたりして、地いきの人ときょう力し合うことです。そして、地いきの人となかよくして行事にさんかしたいです。



【公民館周りの清掃活動】



【地域の方とともに活動する姿】

春日東小学校 6年3組 後藤 柚乃

「地域の方のおかげ」

私は、若葉台東地区子ども会の会長になって、たくさんの行事に参加しました。

世代交流会などで、地域の高齢者の方々とゲームをして遊びました。おじいちゃんもおばあちゃんも笑顔いっぱい、私もとてもうれしくなりました。

クリーン作戦では、地区をそうじしました。きれいになった町を見て、自分が役に立ったことを実感できました。

防犯パトロールでは、拍子木を暗い中でたたいて、「火の用心。戸締まり用心。火の用心。」と言いながら歩きました。私たちの呼びかけで、町の人たちが火事に注意してくれたらと思いました。

実際に地域の行事に参加したことで、地域の方のおかげで、地域の安全がいつも守られていることを感じました。



春日東小学校 6年2組 豊村 紗生

「地域の伝統」

私は、若葉台西の夏祭りでおみこしに参加しました。

おみこしとは、数人で力を合わせて神輿という乗り物をかついで地域を回る行事です。この行動をすることで、災厄やけがやおそれが無くなったり、人々の願いを聞き入れたりできるそうです。

私は、5人の友達とおみこしをかつぎました。みんなで「わっしょい。わっしょい。」と声をそろえてグラウンドを回りました。みんなに困ったことが起きないことを願って、全力で声を出しました。

私は、この経験を通して、こんな一つの行事を一人一人が力を合わせることで、地域が守られていることを知って、これからも地域の伝統について深く考えてみようと思います。



春日東小学校 6年1組 小田原 結衣

「宝町区がもっとよくなるように」

私は、宝町区のバスツアーという地域行事に参加しました。バスの中でクイズ大会をしたり、果物の重さ当てゲームをしたりして、たくさんの地域の方々と仲を深めることができました。毎年ちがったフルーツ狩りへ行くというイベントで、今年は梨狩りでした。

このイベントを通して私は、地域の方々がどれほど私たちを思ってくれているか分かったし、私たちが地域の方々と触れ合うことで、宝町区がもっとよりよくなるんだと感じました。

中学生になったら、今度は主催者側となって地域を盛り上げていきたいです。



(「大すき春日原」の学習を終えて))

わたしたちは、総合の学習で、地いきのことを調べたり、地いきの人といっしょに活動したりしました。

まず、社会科の学習で校区探けんをしました。行ったことがない所もあったので、春日原には、わたしが見たことがないたてものが、いっぱいあるんだなと思いました。

次に、りゅう神池の花植えを、自ち会の方に手伝ってもらいながらしました。いつも学童から帰っているときに、りゅう神池を通ります。そのときに、町の人が通っていて、

「このお花きれいだね。」

と町の人が言ってくれるので、お花を植えてよかったなと毎日思います。花植えのときに、お世話になった自ち会の方たちは、他にもいろいろな取り組みをしていらっしゃいます。それで、どんな思いで公みん館の仕事をしているのか、話を聞きました。春日原公みん館の人も、南公みん館の人も「あったかい町」「明るい町」「すみよい町」を目指していらっしゃいました。「お年



よりから小さい子どもまでつながって、町をもりあげてほしい」というねがいもありました。そこで、わたしたちは、公みん館の取り組みを調べて、全校によびかけるアピール作せんを行いました。公みん館で働く人の思いやねがいを伝えたあと、秋祭りやもちつき大会のさんかをよびかけました。アピール作せんは、大せいこうでした。みんな真けんに聞いてくれてうれしかったです。秋祭りやもちつき大会には、たくさんの人が来ていました。にぎやかで、お友だちもたくさんお祭りに来ていました。町の人みんながえがおで、自分もお友だちもえがおになりました。これからも、町の行事にできるだけさんかして、町の人となかよくなりたいです。

「地いきとのつながり」

わたしは、総合的な学習の時間「大好き春日原」で花植えをしました。

春、わたしたち3年生は龍神池前の花壇へ行きました。そこには地いきの方も来ていました。「よろしくお願いします。」わたしたちは元気よくあいさつをしました。

花植えが始まり同級生は次々と持ってきた花を植えていきます。しかしわたしはなかなか上手に植えることができません。困っていると「大丈夫？」という声が聞こえてきました。振り向くと地いきの人が心配そうにわたしの事を見ていました。わたしは上手な植え方がわからないと地いきの方に伝えました。すると地いきの方が一緒に手伝ってくれて、きれいに植えることができました。植え終わった花には水をたっぷりあげました。花が喜んでくれたように見え、とてもうれしかったです。こうして無事花植えは終わり、美しい町をつくることができました。このとき、初めて地いきの方との本当のつながりを感じました。今まで祭りに行ったらつながっている、あいさつをしたらつながっていると思っていた自分がはずかしくなりました。そして地いきの人と協力してがんばるのが本当のつながりだと今のわたしは思っています。

これからも子どものうちは地いきとのかかわりを深め、地いきを大切にしていきたいです。でも大人になったら、その地いきにつくせるすてきな大人になりたいです。



「地いきの方と一緒に」

わたしは総合的な学習の時間に、公民館について調べました。

初めに公民館について調べると、いろいろな行事があることがわかりました。また、公民館にはそれぞれテーマがありました。春日原公民館では「明るい町、住みよい町、住んでいてよかった町」、南町公民館では「あったか南町」です。

わたしは、それぞれのお祭りにさんかしました。秋祭りでは、しゅんに合ったいもや子どもから大人まで楽しめる早飲みきょうそうがありました。もちつき大会では、いろんなもちが売ってありました。わたしはもちをつかせてもらいました。春日原公民館のテーマのように、みんなが明るくなる行事でした。南町公民館でも、みんながあたたかくなりました。

わたしはこれからも、いろんな行事にさんかしたいです。地いきの方が公民館のテーマのように生活してほしいという思いがたつたわかりました。



〈春日市立春日西小学校〉「あいさつ推進」のための取組について

本年度、WBC（西中ブロックコミュニティ）の重点目標として、「あいさつの推進」を掲げ、3校合同で取組を行っている。本校の取組内容は以下の通りである。

1 学校運営協議会への児童参加の取組 〔7／6第2回学校運営協議会において〕

熟議のテーマとして「あいさつの推進」を取り上げ、代表児童が今後の校内の取組について報告した。児童・保護者・地域間で活発な協議が行われた。（第5回で代表児童が取組成果を発表する予定）



2 校内における「あいさつ運動」の取組 〔10月〕

全学級が分担し、始業前に2カ所に分かれてあいさつ運動を行った。子どもたち同士のあいさつが飛び交い、気持ちのよい朝を迎えることができた。取組後は全体的にあいさつの広がりが見られた。



3 「小中合同あいさつ運動」の取組 〔毎月第1月曜日7:45～8:00〕

西中学生徒会の生徒がハイタッチをしてくれながらあいさつをしてくれている。お手本となる素晴らしいあいさつで、参加している児童会運営委員の児童にもとてもよい影響を与えている。



4 「伝えよう愛キャンペーン」の取組 〔年間2回〕

保護者・地域・教員が合同で参加している。子どもたちのあいさつに関する実態や状況、取組の成果や今後の課題などの情報を共有できる貴重な場になっている。参加人数を増やすことが課題である。



5 WBC（西中ブロックコミュニティ）合同研修会 〔12／19〕

春日西中・白水小・本校の児童・保護者・教員・地域が一堂に会し、あいさつ推進の取組の成果や課題などを、少人数グループごとに協議した。それぞれの役割や3校の取組のよさなどを共有できた。



上記取組の効果として、多くの児童が、あいさつの大切さやよさを実感し、学校・家庭・地域にあいさつを広げていこうとする意欲を高めることができ、市民性の育ちにつながったと考える。

以下は、自己の生活経験を振り返り、今後もあいさつを通じて、学校・家庭・地域に貢献していこうとする実践意欲を高めた児童の作文である。

「元気にえ顔であいさつ」

2年 畑山 さほ

わたしが、あいさつでがんばっていることは、元気にえ顔で言うことと、大きな声で言うことです。

どうしてかという、元気にえ顔であいさつをすると、あい手もえ顔になれると思うからです。わたしは、あいさつであい手がえ顔になると、自分も気持ちがいいです。それに、友だちにえ顔で元気に「おはよう。」と言うと、友だちもそれをえ顔でかえしてくれて、うれしい気持ちにもなります。

そして、わたしが元気にえ顔であいさつをつづけようと思うわけは、校長先生から「すばらしい。」と言われたいからです。前に、しょくいん室にカギをかえしに行った時に、え顔であいさつをしたら「すばらしい。」とほめられました。だから、これからもえ顔で元気にあいさつをつづけます。そして、2年〇組をえ顔でいっぱいになりたいです。

「がんばろう あいさつ」

3年 松尾 和沙

私が、学校、家てい、地いきでがんばっていることは、学校では先生たちに聞こえる声であいさつをすることです。家ていでは「おはよう。」などのあいさつをしています。地いきでも相手に聞こえる声であいさつをすることをがんばっています。

つぎに、あいさつのポイントについては、相手にとどく声であいさつすることと、相手の目を見ることと、立ち止まっておじぎをすることはできていましたが、にこにこえ顔であいさつすることはできていませんでした。相手より先にあいさつすることはたまにできています。

そのつぎに、あいさつはなぜ大切かという、あいさつをしたら、みんな言われたらうれしいだろうし、さらに、あいさつのポイントでほめられると、さらに、うれしいからだと思います。ぎゃくにしなかったら、みんなとなかよくなれないと思います。

これから、できないところはできるようにがんばります。

「地域を良くするために取り組んでいることについて」

5年 系数 李都

僕が地域を良くするために取り組んでいることは二つあります。一つ目は地域の方に自分から進んで挨拶を行っていることです。二つ目は地域の行事に積極的に参加したりお手伝いをしたりしていることです。

一つ目の挨拶では、自分から進んで地域の方に挨拶をすることで、相手の方も自分を覚えてくれ笑顔で返してくれるようになりました。挨拶は、人と人が仲良くなれる一番の手段だと思います。地域みんなが仲良くしていけるようにこれからも進んで挨拶を続けていきたいです。

二つ目の地域行事参加では、僕は一年生のころから下白水南子ども会に入っていて、地区の夏祭りや運動会、カローリング大会等に参加しています。行事に参加するのはとても楽しいです。

いつも子ども会の行事に協力していただいたり、みんなのために地域行事を運営して下さったりしている自治会の方々に感謝しています。だから、地域行事があるときは、家族みんな積極的に参加したり、お手伝いをしたりしています。大人の人みたいに難しいことは出来ないけど、ごみ拾いや公民館の清掃等、自分が出来ることをして、地域の役に立ちたいです。

そして、これからは、友達や周りの人にも地域の良さを知ってもらい、みんなで協力しながら、自分の地域を良くしていきたいと思っています。

題名「夏祭り」

春日市立須玖小学校 第6学年 永田 彩夏

この前、須玖南地区の夏祭りで自治会の子どもリーダーのひとりとしてジュースなどの販売を担当しました。私は希望して、最初の時間帯に手伝うことにしました。私の弟は、お客の呼び込みなど熱心に活動しました。

子ども神輿にも参加しました。浴衣の上から法被を羽織ったのでとても暑かったです。みんなで息を合わせて、老松神社におかうときは気持ちよかったです。

日が暮れ始めると人が増えてきました。急いで友達を探し夏祭りを堪能しました。ただ、暑かったので、ミストなどの準備やうちわの配布など、計画の時に思いついて提案していればよかったなと思いました。

「来年も夏祭りができたらいいな。」

子どもリーダー最後の年にたくさんの人々の笑顔を見ながら、そう思いました。そして、もしかしたら、私が手伝ったこともたくさんの人の笑顔づくりの役に立ったのかなと思うと誇らしく思いました。

題名「夏祭りに参加して」

春日市立須玖小学校 第5学年 石丸 いおり

私は、須玖南自治会の子どもリーダーとして、夏祭りに参加しました。御神輿を担いでいたとき、周りにいた大人達が「わっしょい！わっしょい！」というのに合わせて子ども達も「わっしょい！」って声を出していて、一つになったように感じました、そして、夏祭りっていいなと思いました。普段あまり関わりがない人たちと一緒に声を合わせることができて楽しかったです。

浴衣も久しぶりに着ることができました。嬉しかったです。屋台もいっぱいあって目移りしそうでした。私は焼きそばを買って食べました。おいしかったです。

夜に友達と過ごす機会はなかなかないので、いつもとちがって楽しかったです。ラムネ早飲み競争が凄く盛り上がっていてびっくりしました。

祭りの準備は、ポスターづくりや御神輿の飾り付けなどいろいろすることがあって大変でしたがとても楽しく思い出に残る祭りになりました。来年も子ども役員に立候補してお手伝いをがんばって、夏祭りを盛り上げたいです。



題名「夏祭りの楽しい思い出」

春日市立須玖小学校 第5学年 田川 礼

今年の夏祭りは、楽しい思い出をたくさん作ることができました。特に楽しかった思い出を3つ紹介します。

一つ目は、ジュース屋を開いたことです。はじめはお客さんが少なかったけれど、時間が経つにつれてたくさんの方が来てくれて嬉しかったです。去年転校した友達も来てくれていたのでびっくりしたけど、久しぶりにあえて嬉しかったです。

二つ目は、たくさんの屋台がでていたことです。焼きそばやわたあめを食べたり、友達とおしゃべりできて嬉しかったです。焼きそばがおいしかったのでもう一個買いました。

三つ目は、舞台での演奏を友達4人で一緒に見たことです。特に、合唱と太鼓の演奏がすごかったです。全員で息を合わせて演奏していたので感動しました。

私は家に帰って、夏祭りのことをお父さんとお母さんに何度も話しました。

来年も子ども役員になって、参加するみんなが楽しく過ごすことができる夏祭りにできたらいいと思います。



春日市惣利地区の伝統「惣利太鼓」に触れ合って

春日市立春日南小学校 第5学年1組

工藤 ゆわ

惣利太鼓は、最初難しいかなと思っていたけど、たくさん練習してだんだん上手になっていきました。はじめは、太鼓の音を聞いて大きいなと思っていたけれど、だんだん練習するにつれてすごいなと思いました。今まで、この伝統を受けついできた惣利太鼓を今日、私たちも4年生に受けつぐことができたと思います。5日間、一生けんめい教えてくださり、ありがとうございました。たくさん練習した成果を4年生に見せることができたと思います。これからも惣利太鼓の伝統を広めていきたいです。

春日市立春日南小学校 第5学年2組

向山 朝陽

ぼくに惣利太鼓について教えていただき、ありがとうございました。ぼくは、惣利太鼓を力いっぱいたたいて、4年生にその姿を見せることができてうれしかったです。4年生にそのよさを伝えることができました。約2週間練習をしてきてよかったなと思いました。学校以外でもいろんな人に惣利太鼓を見せて、惣利太鼓のよさを知ってもらいたいです。自分たちが住んでいる春日市惣利地区の伝統だと初めて知ったときは、自分たちが住んでいるところにこんな伝統があるんだなと思ってびっくりしました。惣利太鼓をいろんな人に広めたいです。太鼓を初めて演奏して、想像以上に大きい音が出てびっくりしました。やぐら太鼓は音が響いているので体に振動が伝わりました。他の太鼓も小さくても大きい音が出たので、すごいなと思いました。太鼓を作っている人がすごいなと思いました。ぼくに惣利太鼓についてたくさん教えてくださって本当にありがとうございました。

春日市立春日南小学校 第5学年4組

井手 くるみ

私は、実際に惣利太鼓に触れて、ものすごく伝統的な感じが伝わってきました。稲永さんが惣利太鼓についてお話してくださったときに、この惣利太鼓の伝統を受けついでいこうと思いました。私は、しめ太鼓を担当しました。すごく高い音で、リズムが難しく、苦勞しましたが、練習するにつれて、どんどんコツをつかんで、本番では最後の「ヤー」をそろえることができました。稲永さんには、感謝の気持ちしかありません。わざわざ竹太鼓を作り、みんなが演奏しやすいように土台までつけてくださってありがとうございます。稲永さんが指導してくださったおかげで、4年生の前で発表することができました。

私は、これからも惣利太鼓を受けついでいこうと思いました。本当にありがとうございました。



【4年生に惣利太鼓を披露する5年生】

コミュニティ委員会を通してわかった地域のよさ

私は、コミュニティ委員会の仕事を通して、地域の方がいるありがたさや、地域の方がやってくれていることの大切さを知ることができました。なぜなら、地域の方のおかげで、安全に登校できたり、クリスマス会など楽しい行事を開催することができたり、地域の方と触れ合えたりすることができているからです。

例えば、誰かに誘拐されてしまうことがあるかもしれません。事故にあってしまうと、怪我などをしてしまいます。でも、地域の方が毎日欠かさず、旗持ちをしてくれたり、見守りをしてくださるのおかげで、事故に合わずに学校に行ったり、帰ったりすることができます。

また、地域の方がクリスマス会や夏祭りなどの楽しい行事を考えて行ってくれたり、地域の方たちと触れ合う行事を行ってくれたりします。コミュニティ委員会に入って、行事の計画を考えたり、みんなの前で発表したり、行事を進めたりすることなどを経験しました。計画を立てるときは、みんなが楽しめるようにするためにはどうすればよいかなどを考え、コロナウイルスの中でも、どうすればできるかを考えることが大変でした。みんなの前で説明するときには、どんな事を言ったらみんなにわかりやすく伝わるかなどを考えることも頑張りました。そんなことを、地域の方は行事があるたびにしっかりと考えてくださっています。また、進行をして、安全に行事が終わるように努力してくださっています。今もこうして楽しく、安全に過ごせているのは、地域の方が見守っていてくださっているおかげだということを、改めて知ったり、感じたりすることができました。

わたしは、地域の方への恩返しとして、これからも進んで地域の行事に参加したり、地域行事のお手伝いをしたりして、地域を盛り上げていきたいです。また、地域の方に感謝の言葉などを伝えるなどをして、地域の方に感謝を伝えていきたいです。



町がきれいな小倉東地区に

ぼくは、今年度初めてコミュニティ委員会に入りました。ぼくは、「この委員会に入ってよかったな」と心から思いました。なぜならコミュニティ委員会の活動をする中で、地域の中でたくさんの方がしてくださっていることがわかり、「ありがたいな」と思ったからです。

ぼくの住んでいる小倉東地区は温かい地域です。その小倉東地区には、スローガンがあります。それは、「自然がいっぱい、にっこり笑顔、小倉東」です。このスローガンは、「小倉東地区には自然がいっぱいあるけれど、町をきれいにしてその自然がいっぱい広がって、住んでいるみんなもなかよくにっこり笑顔で過ごせるといいな」という思いを込めてつくりました。

小倉東地区の11月12日の秋のクリーン作戦では、スローガンの「自然がいっぱい」を目指して、地域の皆さんと協力して掃除を頑張りました。多くの人が参加してあっという間に小倉東がきれいになり、スローガンが達成できたなど改めて思いました。

小倉東のスローガン「にっこり笑顔」については、8月6日には、小倉東地区の夏祭りがありました。委員会の先生や地域の方と一緒に役割を決めたりして、計画や準備は大変でした。そんな夏祭りは、ぼくは行けなかったけど、他のコミュニティ委員会のみんなが司会進行などを頑張っていてすごいと思いました。

「夏祭り、楽しかった」などの声が聞けて、みんなにっこり笑顔になれたようで、ぼくもとてもうれしくなりました。

こういう楽しいイベントを考えてくださった地域の皆さんに負けないように、ぼくもこのコミュニティ委員会でクリーン作戦や資源回収に取り組んで、自分にできる活動をたくさんしようと思います。そして、地域を盛り上げたり、地域をより良くするにはどのようにしたらいいのかを考え、地域の一人としてこの地域を大切にしていきたいです。



地区のために

大谷地区のスローガンは、「あいさついっぱい繋がりたくさん大谷地区」です。「大谷地区で、あいさつや人と人とのつながりが増える大谷地区になるといいな」という願いを込めて、大谷地区のコミュニティ委員会の5年生や6年生と一緒に、このスローガンをつくりました。

私は今年度もコミュニティ委員会に入って、大谷地区をより良くしようと頑張りました。昨年度も同じコミュニティ委員会で、夏祭りのレクリエーションの予定を立てましたが、新型コロナウイルスによって夏祭りが中止になってしまいました。しかし、今年度は新型コロナウイルスも少なくなり、夏祭りを延期して秋祭りとして開催することができました。

今年の秋祭りのレクリエーションは、昨年度の6年生（現中学1年生）と一緒に考えた夏祭りのレクリエーションの予定をもとにして、5年生と一緒にみんなが楽しめるようなゲームを考えました。その中でも、マルバツゲームでは、小さい子から大人まで楽しいと思えるようなクイズを作るために、難しすぎず簡単すぎない問題を作るのに苦戦しました。秋祭りの私達が考えたレクリエーションが終わり、私の友達や親から「楽しかったよ」「すごかったね」「頑張ったね」などと言ってもらえたことがうれしかったです。みんなが楽しんでくれたので、今年の秋祭りは大成功でした。

他にもコミュニティ委員会では、資源回収やクリーン作戦などのポスターを作ったり、大谷小学校のみんなが参加してくれるように放送をしたりしました。多くの人が参加することによって、大谷小学校の校区全体がみんなのおかげできれいになりました。

私はコミュニティ委員会に入ることによって、4年生までは苦手だった声を出して発言したりあいさつをしたりするのが上手になることが出来、たくさんの仕事をやる楽しさがわかるようになりました。これから中学生になっても、コミュニティ委員会のような「地域をよりよくする委員会」などに入り、みんなに「ありがとう」と思われるようなことをたくさん続けていきたいと思いました。地域を大切にすることはこの先もずっと大事だと思うので、たくさんできるように頑張ります。



「地域の行事や活動に参加して」

わたしは、もちつきや祭りなどに参加しました。参加しているときは、とっても楽しくて、地域の方々は、わたしたちのために楽しめる行事や活動をたくさん作ってくれています。また、地域のために、地域がきれいになるように活動をしてってくれています。わたしたちや地域のために、一生懸命な姿を見て、「とてもすごいな。」「うれしいな。」と思いました。

わたしも、大人になったら、地域の人として、みんなが楽しめるような行事を作っていきたいなと思いました。

これからは、時間の許すかぎり、たくさんの行事や活動に参加して、地域の方と一緒に行事や活動を楽しめるように関わっていきたいと思いました。

また、地域のために、地域の人のために貢献できるように、古紙回収などにも参加していきたいと思います。そして、みんなの笑顔のもとになれるような地域の人になっていきたいです。



梅木 ひまり

「地域の方への感謝の気持ちを込めて」

わたしは、地域で行われる祭りに行きました。祭りに参加した時に、地域の方々が私たちのために行事や活動を考えてくれているんだなと思いました。食べ物や射的、スーパーボールすくい等の屋台をしていている人、飾りを作っている人等、たくさんの方々の協力によって祭りを開催することができているのだなと思いました。

これから地域の行事や活動を行っている地域の方々に感謝しながら、いろいろなイベントや行事に楽しく参加したいです。

また、行事や活動だけでなく、朝や帰りに見守ってくれている地域の方々にも感謝して、元気のよいあいさつをしていきたいです。地域のために自分にできることを増やしていこうと思いました。



「子ども役員の会長として」

わたしは、今年、子ども役員の会長をしました。はじめは、わたしにできるかなと覚えることもありました。

会長としての初めての役割は、『6年生卒業おめでとう会』の司会でした。最初は、緊張しました。みんな話を聞いてくれず、むずかしいなと感じました。けれども、地域の方が優しくサポートをしてくれたので、きんちょうもほぐれ、だんだんとみんな話を聞いてくれるようになってきました。とてもうれしい気持ちになりました。

わたしが、一番印象に残っている行事が、『6年生公民館キャンプ』です。地域の方が、すいかわりをしてくれたり、花火を用意してくれたり、わたしたちが楽しい活動になるように準備をしてくれました。地域の方が、いつもわたしたちのことを考えてくれていることが分かり、子ども役員の会長としても、地域のためにもっと頑張ろうと思いました。

わたしは、地域の方々との関わりの中で、自分の住んでいる地区のよさを感じることができました。これから中学生になっても地域との関わりを増やしていこうと思います。



春日市立春日野小学校 第6学年1組 山田 直希

題名 挨拶運動と地域行事に参加して

ぼくは、挨拶運動や、地域行事に行って、とても春日市がよいところになったなと思いました。なぜなら、最初はみんなの手本になるはずの6年生が、あまり挨拶をせず、あまり良い気持ちになれませんでした。しかし、挨拶運動を何回もすることで、みんなが自信をもって、挨拶できるようになり、低学年たちの手本になってきたと思います。地域行事は、クリーン作戦などに高学年が積極的に取り組んでいる姿を見ることができたのがとても嬉しかったです。春日市がどんどんきれいになっていくのがとても良い気分になりました。

来年は、中学生になって、春日野小学校からはいなくなってしまうけど、中学生になっても、6年生になって挨拶をがんばったことと地域のことを学んだことを忘れず頑張っていきたいです。そしてもっと周りに挨拶の大切さを広めたいです。



春日市立春日野小学校 第6学年1組 古川 寿珠

題名 コミュニティ委員長として

わたしはコミュニティ委員長として、主に2つのことをがんばりました。

1つめは話し合いです。月一回の委員会活動で話し合いを進めるとき、地域とつながって、地域のためにどんなことができるか意見を出しやすいように、例を出したり、最初は少人数で話し合ったりして、工夫しました。学校運営協議会に参加したときに、地域の自治会長さんから「地域の一員として、元気に明るく過ごしてほしい。」「見守り隊の人に挨拶すると喜ばれるよ。」と意見をいただきました。そこで、委員会として何ができるかを一人一人の意見を取り上げながら話し合い、挨拶を重点目標としました。

2つめはコミュニティ委員会の活動に進んで参加しました。挨拶運動は、初めの時間に遅れたり、あいさつの声が小さかったのですが、徐々に時間を気にして参加したり、挨拶を相手にしっかり届くように積極的にするようになってきました。委員長の自覚をもって、残り3ヶ月活動していきたいです。



春日市立春日野小学校 第6学年4組 下見世 尚登

題名 コミュニティ委員会でがんばったこと

ぼくは、コミュニティ委員会を通して進んで挨拶をしたかったので、挨拶運動に力を入れました。自分から声をかけ、地域の方々に率先して挨拶ができるようになったので、嬉しかったです。中学や高校、大学、大人になっても挨拶ができるように取り組みたいと思いました。

次にタイムバンクチャレンジでは、メディアに触れる時間を減らすための取り組み内容を、放送で呼びかけました。僕は、サッカーの練習や自学、家族と話す時間が増え、いつもより1日が楽しく感じられました。

地域行事では、地域ごとのゴミ拾いや夏祭り、秋祭りに積極的に参加しました。祭りでは、各地域の地区長さんが企画し、開催し、みんなが楽しく過ごしていました。あともう少しで中学生になるけれど、これからも地域の方々と仲良くなって、自分のことをもっと知ってもらい、コミュニティ委員会の副委員長として最後まで様々なことに取り組んでいきたいです。



心も磨いた清掃活動

春日市立日の出小学校 第6学年 村上 楓

私が、心のチャレンジ（日の出ふれあい公園の清掃）を通して大切だと思ったことは2つあります。

1つ目は、仲間と協力することです。実際に公園に行ってみると、ものすごい量の落ち葉があり、「こんなにたくさんの落ち葉をきれいにできるかな・・・。」と不安に思いました。しかし、班の友達と協力して落ち葉を集めていくと、袋が足りなくなるほど集まりました。途中で袋が足りなくなるというハプニングは、自治会の方や先生方が指示をしてくださったり、学校に取りに帰ってくださったりしたおかげで、あまり影響がでませんでした。これからも支えてくださるたくさんの方々への感謝を忘れず、仲間と協力して物事に取り組んでいきたいです。

2つ目は、めあてを立てて行動することです。私は、「地域の方への感謝の気持ちをもって、全力で取り組む」ことをめあてに、清掃を行いました。洋服が落ち葉や汚れだらけになることに少し抵抗がありましたが、頑張った証だと考えることで抵抗をなくすことができました。また、友達が素手でたくさんの落ち葉を抱える姿に感銘を受けました。私達が今まできれいな公園を使っていたのは当たり前ではなく、今日のように血のにじむような努力をしている方々のおかげであると身をもって体験することができてよかったです。



人のために何かをする喜び

春日市立日の出小学校 第6学年 町田 匠冬

ぼくは、今回の心のチャレンジを通して、人のために何かをする喜びについて学びました。ぼくは、行事や何か仕事をする時、必ず目標を立てるようにしています。今回は、「地域のためという思いを常に持ち続けて作業をする」という目標を立てました。「この目標にそってきれいにしよう！」そう思いながら、作業を始めました。

先生から指定された場所に着くと、想像をはるかに超えた落ち葉の量でした。「理想の公園」を頭に浮かべながら掃除をしました。カメムシが服に着いたり、袋が破れたりしたけれど、きれいな公園で遊んでいる人たちを思うと、やる気が出てきました。



結果、70袋以上のゴミや落ち葉が集まりました。ぼくは、きれいになった公園を見てとてもうれしい気持ちになりました。帰り道、地域の人からの「ありがとう」の言葉を聞いて、人のために何かすることへの喜びを改めて実感しました。

ふれあいサロンを振り返って

春日市立日の出小学校 第5学年 松尾 樹和

ぼくは、今回のふれあいサロンで、地域の方たちと「ふるさと」を歌ったり、いろんな遊びをしたりしました。

最初の手遊びでは、「ちゃつぽ」と「もしカメ」をしました。地域の方たちにみんなで手遊びを教えたら、地域の方が笑顔になって、とてもうれしかったです。

グループ交流の時は、トランプをしました。「ババぬき」と「ジジぬき」を9人でした。

カードが増えたり減ったりして、全然決着がつかなくて、おもしろかったです。そして、地域の人達がとても強かったです。

最後に、みんなで「ふるさと」を歌いました。地域の方たちも歌ってくれて、心を一つにできて、とてもうれしかったです。

寒い中、学校に来てくださってとてもうれしかったです。来年のサロンが楽しみです。



楽しかったふれあいサロン

春日市立日の出小学校 第5学年 田村 明紗

12月13日にサン・ビオ地区の方との「ふれあいサロン」がありました。サロンでは、手遊びやグループごとの交流をしました。私は、今まで地域の行事に少ししか参加することができなかったのですが、地域の方たちと遊んだり、歌を歌ったりすることができてとっても嬉しかったです。

サロンで、地域の人たちと話したりするとき、どんな接し方をしたらいいのかや、どんな遊びができるかなどを知ることができました。これから、地域の方たちに、あいさつをしたり、お話をしたりしコミュニケーションをとっていけるように心がけたいです。そして、地域の人たちに私達のことを知ってもらえるようにしたいので、次の交流会では、内容をいろいろと工夫して、楽しくコミュニケーションがとれるようにがんばっていきたいです。



日の出小学校 キラキラビンゴの取組

日の出小学校では、あいさつを広げる取組として、児童運営委員会提案の「キラキラビンゴ大作戦」に取り組みました。この取組は、「学校、家庭、地域」が協力して、レベル4の素敵なあいさつができた児童にシールを渡す。児童は、そのシールを台紙に貼り、ビンゴを目指すというものです。ビンゴがそろった児童は、全校放送で紹介し意欲を高めます。この取組に向けて、学校運営協議会の皆さんにもご意見をいただき、改善しながら取り組むことができたおかげで、充実した活動となりました。



キラキラビンゴ大さくせんがんばろう

春日市立日の出小学校 第2学年 あかみね うた

わたしは、キラキラビンゴ大さくせんにとりくみました。

キラキラビンゴというのは、ちいきの方にあいさつをして、シールをもらってビンゴをすることです。わたしが帰っているとき、ちいきの方に会いました。わたしが、「こんにちは」と言うと、ちいきの方が「いいあいさつだね。」と言ってくれました。そして、そのちいきの方がシールをはってくれました。わたしは、うれしくて、気持ちよく帰れました。わたしは、どんどんあいさつをして、ビンゴをしました。ビンゴをしたとき、ビンゴがそろってもいっぱいあいさつしよう」と思いました。キラキラビンゴ大さくせん、楽しかったです。



がんばったよ、キラキラビンゴ大さくせん

春日市立日の出小学校 第2学年 岩本 なのみ

わたしは、きらきらビンゴ大さくせんで、ちゃんとあいさつできるか、ふあんでした。でも、友だちが、ちいきの人に「こんにちは」「さようなら」と言っていて、すごいと思いました。だから、わたしも、大きな声で「こんにちは!」「さようなら!」と言いました。そうしたら、「こんにちは」「さようなら」とへんじをかえてくれました。シールもくれてうれしかったので、それをつづけると、シールがぜんぶそろって、3ビンゴになりました。学校のほうそうで「岩本 なのみさん」とよばれて、うれしかったです。キラキラビンゴ大さくせんがおわっても、しっかりあいさつをしようと思いました。



地域のボランティアの方

ぼくが住んでいる春日市には、毎朝ボランティアで交通安全の見守りをしてくれる地域の方が立っている。ぼくの通学路には、郵便局長の足達さん、自治会長の吉川さんが立ってくれている。ぼくは、二人に会うと嬉しい気持ちになる。

朝、登校しているときに僕が、二人に「今何時ですか。」と聞くといつも時間を教えてくれる。時間を教えてくれるおかげで、急いだ方が良いのか、急がなくても良いのかが分かって、多かった遅刻が少なくなってきた。他にも、いろいろな話をしてくれたり、話を聞いてくれたりするから、明日も会いたくなって、家を出る時間が自然と早くなった。

ぼくは、みんなの安全を考えて、交通安全の見守りをいつもしてくれる二人に感謝の気持ちしかない。だから、ぼくも二人のように下学年が困っているときには、話を聞いて、どうしたらいいかアドバイスをしていきたい。そして、二人に感謝して、安全に気を付けて登校したいし、足達さんや吉川さんに迷惑をかけないように学校生活を送っていきたい。

これからは、足達さん、吉川さんの思いもこめて、ぼくも地域の一員として、この学校みんなが安全に生活できるように頑張っていく。



笑顔あふれる地域へ

SDGsという言葉をご数年でよく耳にするようになりました。私も言葉自体は聞いたことがあったのですが、それがどういうものなのか詳しくは知りませんでした。学校で夏休み前に、SDGsに詳しい地域の中川さんからSDGsがどのようなものなのかお話をうかがいました。そのお話の中で、世界中でたくさんの方が様々苦しんでいることを知りました。SDGsの目標がなければ、もっと多くの方が苦しむということ、みんなが努力しなければいけないことが分かりました。

私は、テレビでよく虐待のニュースが取り上げられていることが気になっていました。そこで、SDGsの目標16番「平和と公正をすべての人に」について調べることにしました。すると、世界では、5分に3人が紛争やテロなどの争いごとや暴力で命を奪われたり、家族を失ったりして悲しんでいることがわかりました。なぜそのようなことをしてしまうのだろうと悲しくなりました。

夏休みが明けると、本格的にSDGsの学習が始まりました。みんなが夏休み中に調べてきたことを発表し合いました。思っていたより世界の現状は深刻だと感じました。私は自分の身の回りはどうなのだろうと、SDGsの視点で考えてみました。放課後遊んでいるときに、ポイ捨てされたごみをたくさん見かけます。また、電気のつけっぱなしでエネルギーを無駄にしていたり、持ち主不明の落とし物がたくさんあって、自分のものを大切にしていなかったりと、SDGsの問題点がたくさん見つかりました。私の住む地域は、たくさんの方がおたがいにあいさつをしていて、地域の方と会話をしています。みんなが家族のような感じです。私にとって、地域の人との時間は、とても楽しい時間です。私はこのような地域とのつながりやみんなの笑顔を守るために、どうにかしなければと思いました。

私たち5年生は、さらに学びを深めるために、各グループに分かれ現状の問題点とその問題を解決するためにはどうしたらよいのかを考えました。サミットでは、実際に地域の方にも入っていただいて、私たちの意見に「身近ですぐできるものがあるよ」などアドバイスをいただきました。私たちの「つくる責任・つかう責任」グループは、余った材料を捨ててしまうのではなく、回収して再利用することを決めました。他にも9つのグループがそれぞれ考えた取り組みを実践していきます。このような取り組みをみんなが実践し、広げていくことで、問題の解決につながると思います。

SDGsの学習を通して、世界のこと、日本のこと、そして私たちの地域のことをたくさん考えさせられました。そして、もっとたくさんの方にSDGsについて知ってもらいたいと思いました。まずは、白水小学校のみんなで私たちの考えた取り組みを実践して、家庭や地域に広がっていきます。そして、みんなにとってSDGsが当たり前のものになり、だれもが笑顔の地域や世界にしていきたいです。そして私の大切な地域を、地球を守っていきたいです。



わたしたちの地いきで

わたしは、小学四年生になって地いき清そうやクリーンデーに参加しました。

地いき清そうでは、たくさんのごみ拾いをしました。地いきには、たばこのすいがらやお菓子のごみがたくさん落ちていました。ごみ拾いをすると、これからはごみがない地いきにしていきたいと感じました。そのように感じた理由は、地いきの自治会長の吉川さんの話を聞いたからです。吉川さんがわざわざ小学校へ来て、私たち四年生のために話をしてくださったので、吉川さんが私たちに期待をしてくれていると思ったからです。吉川さんは、ごみを減らすためにしている工夫や私たちにしてほしいことなどを教えてくれました。吉川さんの期待に応えられるように、自分たちにできることを考えていきたいです。その一つとして、私は学級の友達と協力して、ごみを減らす工夫について全校のみんなにテレビ放送で知らせました。小学生にもできることとして、「身の回りのごみを拾うこと」「給食を残さず食べること」「教室に落ちているごみを拾うこと」をみんなに呼びかけました。今後も、自分たちにできることをしたり、よく考えて行動したりして、地いきのごみを減らしていきたいです。

クリーンデーでは、固い草がたくさんありました。草取りをした後、気持ちよく感じました。そのように感じた理由は、みんなのことを思って、一生懸命に草取りをしたからです。学校だけでなく、地いきでも日々、周りの人のことを思って色々な行動ができるようにがんばりたいです。

学校や地いきをきれいにする活動を通して、周りの人の気持ちを考えて、行動することの大切さを改めて感じました。これからも学校や地いきがよりよくなるように、そして、自分が成長できるように、がんばっていきます。



～地域をはぐくむ～

春日中学校 2年 八尋 絵衣菜

私は、コミュニティ・スクールでの活動で学んだ事が大きく3つあります。

1つ目は、春と秋のクリーン作戦です。春には雑草が沢山生えていた公園が、秋には落ち葉でいっぱいになっていたことが印象的でした。雑草を抜いたり、落ち葉を集めるなど地域をきれいにすることで、達成感を得ることができただけでなく、季節の移り変わりを感じられました。皆できれいにした場所を通学する時、気持ちが良く、とてもすがすがしい気持ちになりました。このきれいな状態を保ち、安心安全な地域にしたいと思いました。

2つ目に、カローリングやボッチャなどのニュースポーツでは、沢山の地域の方々と交流でき、とても盛り上がり誰もが真剣になって遊べる行事だと思いました。皆で考え、皆で喜びを分かち合えることは、私たちにとって必要な地域行事だと思いました。

3つ目に、地域の昔からの行事で、夏祭りの盆踊りや、盆綱引き、秋祭りの子供みこしや太鼓、冬には餅つき大会と、様々な貴重な伝統行事を体験することが出来ました。そしてそれらには、色々な思いや願いが込められていることを教わりました。また、地域を盛り上げるために、伝統行事をこれから先も続けて行くことは必要なことだと感じました。

最後に、この1年間のコミュニティ・スクールでの活動で、学校で学べないことを、様々な方面から学ぶことができ、心の成長にもつながりました。

たくさんの地域の方々と交流することで、顔見知りができ、地域の一員としての自覚ができました。そして、なにより地域に愛着がわきました。このコミュニティ・スクールこそ、伝統にしていけることが私たち小中学生の出来ることだと思いました。



「地域行事を通して感じたこと」 春日中学校 2年 行實 心香

私は小学校1年生の時に春日市に引っ越してきました。地域の方との初めての出逢いは学校の通学路です。毎日「おはよう」「いってらっしゃい」と声をかけてくださる見守り隊の皆さんがいてくださる通学路は、引っ越してきたばかりで不安いっぱいだった小学1年生の私にはとっても心強かったのを今でも覚えていています。

それから、小学校を卒業するまでの間、夏祭りや餅つき、左義長などの行事に参加することもありましたが、すでに準備された行事に楽しく参加するだけで、準備や後片付けについては、あまり気にしていませんでした。

中学生になって部伍会の一員となり、コミュニティ・スクールの推進会議などで地域行事に関わる方々との話し合いを通して、これまで何も考えずに楽しく参加していた地域行事が沢山の方の協力の上で成り立っていることを知りました。また、行事に参加する若い世代の人々が少ないことも感じました。

私の住む地域には春日市の伝統行事「盆綱引き」と「嫁御の尻たたき」があります。「盆綱引き」で使用する綱や「嫁御の尻たたき」で使用するワラ棒などは、地域で伝えられてきた知識や技術で作られています。今までは気にも止めなかったことでしたが、部伍会の一員として参加する中で、伝統行事を続けていくことの素晴らしさに気づくことができ、これからも大切にしていこうと思うようになりました。

中学生の私たちにできる一番大切なことは地域行事に「積極的に参加する」とだと思います。そして、参加することで「知る」ことができます。そして、これからの地域の未来について「考えていく」ことが大切だと思いました。そして、自分が感じたこの思いを、地域の仲間たちに広げていけたらいいと思っています。



「楽しむ側から支える側へ」 春日中学校 3年 森川 侑里香

私は春日中学校の小倉地区部伍会で部伍長をしています。部伍会とは、自分の住んでいる地域でのボランティア活動を行う組織のことです。私は3年間この役割を務めています。

なぜ部伍長に立候補したかという、小学生の頃私は地域の行事に沢山参加し楽しんでいました。今度は自分が運営していく立場になるべきだと考え行動に移しました。

初めの頃は、小倉地区の地域の方々や先輩から学びながら、行事や取り組みに参加しました。さらに問題点や改善点を見つけ、コミュニティ・スクールの推進会議にも参加してよりよく活動をするためにと主体的に活動してきました。

また、行事に参加する地域の方々は優しく一から教えてくださり、少しでも地域を住みやすく良くしていこうとする気持ちと努力が伝わってきました。

特に印象に残っているのは「クリーン作戦」です。地域総出で雑草を刈ったり、ポイ捨てされているゴミを拾ったりして、ゴミ袋に詰めていきます。たった2時間足らずで山のようにゴミ袋が積まれています。その様子を見ると、達成感で嬉しい気持ちとポイ捨ての多さの悲しみが同時に湧いてきました。「花いっぱい小倉」のスローガンを実現するためにもゴミは捨てないで欲しいです。

私はこれからも、地域の住民の1人として「助け合い」と「協力」の意識を持ち、みんなの幸せを支えていきたいと思っています。そのために今は、部伍長として自分ができることを一生懸命やっていきたいと思っています。

この思いが次の後輩や小さい子どもたちにも続いていってほしい。それが私の願いです。



春日市を広げる

「地域の活性化」とは何なのだろうか。僕の中では住民以外にも親しまれ、好かれる地域になること、というふうに定義している。

今の春日市は、とても住みやすい良い市である。春日市に住んでいる人たちに話を聞いてみると、誰もが口を揃えて「住みやすい」と言う。もちろん僕も同意見だ。春日公園や春日市民図書館、ふれあい文化センターにスポーツセンター、その他様々な施設などを含めとても充実している。しかし、以前のあんどん祭りで思ったことがある。他の市からの参加者が少ないのではないかとということだ。春日市は人気のある市であるにも関わらず、あんどん祭りを含む行事の存在を知らない人が多いのではないだろうか。そこでぼくはこう考えた。「春日市の知られていないよさをもっと多くの人にも知ってほしい」そこでぼくは市議会アタックでその気持ちを訴えた。

僕たちの班が提案したのは、「春日市の活性化」をテーマとした、SNSの運用である。現在の春日市では、X（旧 Twitter）、Instagram、Facebook、YouTube などで広報活動が行われている。しかし、現春日市民である僕たちの班員に聞いてみると、授業などで調べるとき以外では春日市のそのような投稿を目にしたことがないと言う。ではどうすべきなのか、僕たちは考えた。そして思い立ったのが「Tik Tok」の運営だ。Tik Tok のほうがより多くの再生数を獲得できる可能性が高いからだ。また Tik Tok は世の中の流行の中心といえる。だからこそ、Tik Tok のなかでいわゆる「バズ」を達成することでより先進的で面白い市であるとアピールできるのだ。

そこで活躍するのが私達中学生ではないだろうか。例えば中学校の生徒会や部活動の紹介、中学生と市議会の方々が討論する様子や一緒に交流している姿などを世の中に PR することで、街の活性化が現実となると僕は考える。その他にも春日市で行われるイベントの広報活動も盛んに行うことができる。また春日市 PR 大使でもある、かすがくんとあすかちゃんの活躍の場がもっともっと広がるだろう。

まだ中学生の僕たちにできることは少ないかもしれない。しかし、僕たちの中にも春日市をもっとこうしたいという気持ちはたくさんある。それを実現していくことが春日市をもっと楽しく、よりよい市にしていこうだろう。



今後の地域との関わり方

市議会アタックは自分が住んでいる市全体について考えるよい機会となった。私が住んだ5年間は地域や市の政治について嫌なところを見つけたりしても、自分ではどうしようもないと思っていたので深く考えていなかった。しかし、2・3年生で自治会長さんや市議会の方に自分たちの意見を伝えることで、自分はちゃんと地域に属しているという自覚を持つことができ、改善点を自ら探すことができた。その中から、2つの意見を市議会アタックで述べた。

1つ目はやよいバスについてだ。私は存在を知っていたが本数が少なく、バス停が近くにないことを理由に1度も利用したことがなかった。意見をぶつけると、議員さんはやよいバスの特徴を教えてくださいました。市全体を1周することができるようにターミナルに着く時間を路線全体で揃えているそうだ。それを聞いて、やよいバスが存在している意味を知ることができたし、市民の生活が便利になるようにたくさん考えているのだと思った。

2つ目は市に自習スペースがないことについてだ。家では勉強に集中することができないという意見が班で出たため、議員さんにぶつけた。すると、話は上がっているが本当にしっかり喋らずに勉強するのかという意見があり設置が見送られているそうだ。その代わりに別のスペースを作るべきなのではないかと言われているそうだ。

2つの意見をぶつけることで、市を変えることの難しさを改めて知った。同じ意見を持つ人がたくさんいても、利便性を考え、対象としていない人のことも考える必要があると知った。その代わりに、議員さんは市が良くなるようにとたくさん考えているのだと知った。やよいバスの仕組みや他の班の意見の返答などからたくさん議論して決まったと思う箇所が多くあった。

そして、議員さんの返答の中に「自分で行動してほしい」という言葉がたくさん出てきた。市役所や公民館に行って自分の意見を伝えてほしいとおっしゃっていた。自分で行動しても変わらないとずっと思っていたが、自分は地域の一員であるという意識を持ち、改善してほしいところを考えていこうと思った。



市議会アタックを通して、春日市民として、自分ができること。

私が自分でできることはこれまでたくさん考える機会があったのですが、市議会アタックでの討論や意見交換を通して改めて考えると、自分で気が付かなかった点や課題が多く見つかりました。その中でも、特に私の考え方が大きく変わった点について挙げようと思います。

それは、自分の意見を自治体の人に伝えることです。通学路や塾からの帰り道を歩く際、「道が狭くて自転車とぶつかりそうで怖いな。」「街灯が少なくて歩きづらい。」など、普段よく歩く道だからこそ、気づける課題もたくさんあるでしょう。その道をよく歩く人、あまり歩かない人とでは、不安を抱く程度、注意すべき場所を見つける着眼点はきっと違います。よく通る道、通らない道は人それぞれです。みんなが自分のよく通る道の課題を持ち寄れば、自分の自治体やその周辺だけでも、住みやすい環境になると思います。そして、自治体がよくなるということは、春日市をより暮らしやすいまちにするための一歩になります。一人ひとりの気づきが、まち全体をよりよくする可能性がある、今回の討論を通して気付かされました。しかし、春日市をよりよくするための気づきがあったとしても、私たちには実行案を計画して提出する力はありません。まちの現状を大きく変えようとするには、改変後の影響などの様々な問題がつきものだからです。その問題を考え、配慮して、改変後のダメージがなるべく少ない形で実行することは難しいです。だから、気づいたことをできるだけ、自治体の方々に伝えていくことが大切だと思います。実行にうつすのは、地方自治に関わっている方々なので、伝えていくことで私たちの意見が反映され、住みよいまちにつながっていくことでしょう。

私は今まで、自分にできることは、地域の行事にたくさん参加する、ごみを路肩に捨てないなど、地域の環境に配慮することや、活性化のための取り組みに参加することくらいだと思っていました。しかし、この討論を通して、自分の意見を伝えることで大きく地域を変えることができるかもしれないと気付かされました。今回の機会をきっかけに自分で地域のために動き、まちをよりよいものにする力になりたい、いち市民として、自分の地域についてもっと考えていきたいと思いました。



春日市立春日西中学校 第3学年5組

高西 美沙希

「地域とのつながり」

私がボランティア隊隊長として活動する上で心がけていたことが2つあります。

1つ目は、積極的に地域の方々と関わることです。学校と地域の関わりを深めるにあたってボランティア活動の時間はとても貴重な時間となりました。活動中に積極的に声をかけていくことで、コミュニケーション能力やより良い人間関係をつくることができました。

2つ目は、しっかり周りを見て行動することです。ボランティア活動は常に周りを見て行動することで、臨機応変に対応することができ、地域の方と協力して活動をすることができました。

私は元々人見知りで上手に話すことができなかったのですが、ボランティア活動を通して、初対面の人ともしっかり話せるようになりました。ボランティアは私を変えるきっかけになりました。

私は中学校を卒業して高校生になっても地域のためにできることをしていきたいと思います。



「思いの変化」

私が地域のボランティア活動や地域行事に参加するようになったのは、中学2年生の頃です。それまでは、「家の用事」や「部活」などを理由に、参加していませんでした。正直、知らない人と活動することに抵抗を感じ、参加しようと考えなかったことが原因だと思います。

そんなある日、ボランティア担当の先生から「ボランティア活動に参加しませんか？」と直接秋祭りのボランティアに誘われました。ちょうどその日は、家の用事も部活動もなく、秋祭りのボランティアということで、面白そうと思い、参加することにしました。ボランティア当日。同級生よりも先輩方が多く、しかも直接かかわったことがない人が多かったのでとても不安でした。しかし、準備や出店などの活動をしていく中で、色々な人と自分の趣味や学校のことなどの話をし、仲良くなることができました。また、少しですが、地域のために活動することができ嬉しかった記憶があります。

大人になっていくにつれて、時間がどんどん限られ、ボランティア活動に参加することができなくなる日が増えてくると思います。だからこそ、自分に時間のあるときに積極的にボランティア活動に参加して、地域と関わっていきたいです。ボランティア活動の楽しさを知った私は今までの経験を生かして、参加するだけでなく、ボランティア活動のよさを多くの人に伝えていきたいと思っています。



「ボランティア活動で学んだこと」

私は、中学1年生からボランティア活動に参加してきました。そこから学んだことが大きく分けて2つあります。

1つ目は、地域の方とのコミュニケーションです。最初は地域の方とコミュニケーションをとることはなかったのですが、今は会ったときの「おはようございます。」や「こんにちは。」などの挨拶だけでなく、ボランティア活動中にお話をするなど、学校内の人だけでなく、地域の方々ともかかわりをもつことができました。

2つ目は、行動力です。今まではできなかった「気づき」「考え」「行動」することができるようになりました。例えば、人手が足りていなかったら、積極的に手伝ったり、声をかけたりと、困っている人がいることに気づき、行動するという大切さを学びました。また、今年は、夏祭りで自分たちが出店準備、企画、運営を行いました。そこで私は、いつも楽しむだけだった夏祭りが裏ではとても大変な準備が行われているということを知り、何気なく楽しんでいた夏祭りが開催されることに対して感謝の気持ちを感じました。楽しい行事の裏では誰かの頑張りがいることに気づきました。

このように、私はボランティア活動をとおして、コミュニケーション能力、行動力を身につけることができました。私は、これからボランティア隊隊長として、もっと広い視野をもち、成長していけるよう頑張りたいです。そして行事を自主運営し、自らの手で作り上げていきたいです。



総合的な学習の時間（自治会長との討論会）2年生の取り組みから

（学習の概要）

本校では、2年生の総合的な学習の時間で、自治会長との討論会に取り組んだ。この活動は、3年間の総合的な学習の時間の横断的な取り組みとなっている。地域参加から地域参画への転換を意識して、地域で未来を担う地域の作り手を育てる活動として位置づけている。

生徒達にとって、親しみのある地域・日常を過ごす地域を調べて気づくことで、だれもが安心・安全で住みよい街作りのために、どのようなことを考えていくかを視点に置いて取り組みを行った。

（フィールドワークを終えての感想より）

◇めあて：講話をもとに、フィールドワークの視点をみつけよう

- ・安心安全な町の視点（危険箇所の確認）
- ・住みよい町の視点（公園や遊び場の充実度）
- ・防犯の視点（街灯の設置場所など）
- ・自分の住んでいる地区にあれば充実する施設や設備

【フィールドワーク活動シート】

フィールドワークでは、事前に地域の現状について、調べたいことや地域の方の話を聞きたいなど、計画をたて、グループ別に活動を行った。住み慣れた街ではあるが、普段通ることのない道路や遊ばなくなった公園などに行き、思った以上に情報を手にすることができたようで、新たな気づきも生まれたようであった。

また、自分たちの目線ではなく、子供や高齢者に視点をあて、活動したグループもあり、住みやすい街作りに必要な気づきも多く生まれたようであった。

フィールドワークまとめシート			
地域を調査しよう！（天神山）地区 （6）班			
中山 晴貴	三角 悠貴	増本 信太	森 智人
小林 陽真聖	崎岡 ももか		
【テーマ】 調査場所（天神山地区） すろう!! 子供の命			
(A) わかったこと・気づいたこと ・道が細い。・福銀の裏の道（勝野ハウス） ・曲がり道にカーブミラーが少ない。 ・小学生たちが危ない通学路を伝統で伝えている。			
(B) 疑問に思ったこと ・カーブミラーがないのか。 ・道ははがなんてせまいのか。			

(自治会長との討論会を終えての感想より)

目標：自治会長との大討論会で発表する質問、提案提言事項を決定する

- ・フィールドワークでの調査結果の整理
- ・各グループ間で調査内容の交流
- ・地域への質問事項や提案提言内容の話し合い
- ・タブレットの活用
- ・自治会長への質問事項、提案提言内容の決定

【生徒が活用した学習プリント】

大討論会・提言シート			
(惣利) 地区		(D) 班	
伊藤	大久保	荒木	
坂本	井上		
【テーマ】 惣利の交通 (事故が多いと感じたから)			
(A) わかったこと・気づいたこと			
① キッチンより1日前の横断歩道 ↳ 信号がないが、車通りが多い※小中学生の登下校時間や放課後などが危険である ② 住宅街の坂 ↳ 急な車などのスピードがでやすい ③ キッチンより旧裏の歩道 ↳ 暗く見通しが悪い ※ 自転車との衝突事故や犯罪がおきやすい			
(B) 疑問に思ったこと (改善策)			
① 信号をつける ↳ 資金がたりるのか ② すべりどめをつける ↳ 工事がうるさくないか (生活への支障) ③ 街灯をつける ↳ 資金がたりるのか			
(C) 自分たちにできること【(A)・(B)から考えてみよう】			
① 募金活動を行う ② 工事をお知らせするチラシを配る } 知らせる ○ ポスターを貼る ③ 募金活動を行う			
(D) 提言			
(上記のことから) 惣利には信号・道路のすべりどめ・街灯が不足しており、事故や犯罪がおきやすいという現状があります。 これらの現状を改善するための改善策として信号・街灯は募金活動を行い、道路のすべりどめは募金活動を行うとともに、工事を知らせるチラシを配付したり、ポスターを貼りはり生活への支障を最大限減らすことを提言します。			
() 年 () 組 () 番 名前 ()			

自治会長との討論会では、自分たちが調べてきたことについて質問する場面や提言する場面が、どの地域でもしっかりとできていた。特に、自分たちが直に見たり聞いたりしたことを伝える姿勢は、自治会長の方々も感心する様子が見られて、生徒達も自信満々に討論会を進めることができた。

生徒達の提案を元に、自治会長が市の方に働きかけるなど、生徒の思いが街作りの役に立つことが、現実になった。このことは、生徒にとって大きな成果であり、地域の担い手としてこれからも、地域参加から地域参画への意識の高まりにつながった活動になったと実感している。

【塚原台地区の討論会の様子】



（活動を振り返って生徒の感想より）

- ・お祭りなどの地域行事にできるだけ参加する。
- ・大土居第3児童遊園の草刈りの活動に取り組む。
- ・ポスターなどを掲示して呼びかけをする。
- ・中学生が呼びかけをして行事などの参加を増やし交流を増やす。
- ・地域の中で気づいたことなどを家族に話して、地域的话题を広げる。
- ・公園や見通しの悪い場所の草刈りを手伝おうと思った。
- ・安心、安全な地域を考えて、みんなに子供110番の家を紹介する。
- ・自分たちの生活の場で、危険な場所を見つけたら自治会に報告する。
- ・防犯意識を高める。時間があるときに大人の人とパトロールに行く。
- ・地域行事にもっと参加、参画し、地域に住んでいる人や若い人たちの意見を聞き、提供する。
- ・自分の地域をクリーン作戦できれいにし、住みよい町にしていきたい。
- ・自分から企画を提案したり、企画の中心となって活動していく。
- ・見通しの悪い道路や暗い道路など、気になる道路は、地域の人や先生に伝える。
- ・予算や運営費が、どのようなことに使われているのかを知ることができた。
- ・小さな子供たちが、安全に遊べる公園にするために、遊具を大切に使うようにする。

（自治会長との討論会を終えて）

- ◇今回の取り組みで、参加から参画への意識を変えるためにできることを考える良いきっかけとなった。
- ◇気になることや地域のためにできることを、地域の人と話し合うことで、改善されることがや活気ある地域作りにつながることを学ぶことができた。
- ◇討論会を終え、春日市の秋のクリーン作戦では、地域の方と話し合い、日頃から小学生が遊ぶ公園の清掃を生徒達を中心となっていくことができた。黙々と清掃活動に参加する生徒の姿があった。これからも、地域と共に地域で育つ子供達の成長を支援する活動を実践したい。



【松ヶ丘地区の清掃に取り組んだ生徒達】

「私たちの通学路」

太陽の日差しがだんだん強くなってきた夏のある日。私は、通学路を友達と一緒に学校へ向かいながら掃除をしていた。今回の掃除を通して私は2つのことに気づいた。

1つ目は、ゴミの量の凄さだ。通学路は、学校の活動などで掃除を時々するので、綺麗だと思っていた。しかし、通学路をよく見てみると、あっちこっちにタバコの吸い殻やマスク、ペットボトルなどの人間が出しているゴミが山のように落ちていた。最もゴミが多かった場所は、草むら、通学路付近の植物の上、狭い隙間や側溝のフタだと気づいた。地面に張り付いて取れないゴミ、狭い隙間に挟み込まれたゴミなど、取りにくいゴミがたくさんあった。ゴミの中でも特に驚いたのは、食べかけのコンビニ弁当や飲みかけのコーヒーの缶などが落ちていたことだ。タバコの吸い殻やコーヒーのペットボトルなどのゴミはおそらく大人の人が落としたゴミだと思う。たとえ落としたことに気づかなかったとしても、そのままにしておくのは良くないと感じた。友達と一緒に拾った袋の中には、ゴミが山のように入っていた。私は、ゴミ拾いは、人任せにはしてはいけないということを学んだ。

2つ目は、通学路付近の植物がきれいに剪定されていたことだ。このことから、地域がどれほど大切にされ、愛されているかが分かった。夏は、背の高い草がたくさん生えていたけれど秋頃には、綺麗になっていた。普段は何気なく通っている通学路もよく見たら、人の手がたくさんかけられているということに気づいた。私は、このことに気づき心が温かくなった。通学路は、たくさんの人が毎日通る道なので、これからも綺麗な状態を保てるように、たくさんの人が「街を綺麗にする」ということを常に心がけることが必要だと考える。

私は今回の掃除で、「ゴミの量の凄さ」と「植物が剪定されていたこと」に気づいた。たくさんの人が通る通学路を、これからも気づいたときにはゴミ拾いをして、綺麗にしていこうと思う。私一人ではなかなか通学路などの街が綺麗にならないので、これからはたくさんの人が街をもっと綺麗にしていってほしいと考える。少しでも綺麗な環境にして、通学路を通じて心が温まる人が増えたらいいなと考えている。みんなの暮らす街のために。地域のために。



▲【本校周辺の通学路】



▲【剪定された植物】

「クリーン作戦の意義」

僕は、このクリーン作戦は、生徒自ら地域を掃除することで、きれいにすることの意義や、その大変さを知ることができると考えます。実際に僕も秋のクリーン作戦に参加し、長時間しゃがんだり、重いものをもったり、重労働が多くとても疲れました。

また、先日、道徳の授業でポイ捨てやゴミ箱の設置について、班やクラスの人たちと議論

をしました。その際僕は、他の人の意見を聞いているうちに、ゴミ箱がいくら沢山あっても、ポイ捨てする人の意識が変わらなければ意味がないと思いました。

そう考えてみると、クリーン作戦は、自分が住んでいる街をきれいにし、みんなが気持ちよく過ごすことができるだけでなく、意識も変えることができるのです。今回、みんなで町を掃除する取り組みを通して、自分たちの住む町を大切にしようという意識がめばえました。そのため、地域のクリーン作戦は、非常に有意義な取り組みだと思いました。

今後僕は、自分がポイ捨てしないように自制したり、他の人がポイ捨てなどをしていたら、その人を注意できるようになりたいです。また、自分自身、今までよりも積極的に地域のボランティアなどに参加したいと思います。まわりのみんなにも、参加して、地域と関わったり、掃除の意義を知ってもらいたいと思いました。

これから、自分が住むこの春日をよりよい場所にしていきたいと思っています。

また、他の地域に住んでいる人が、この町に来た時に、「きれいでいいな」と思ってもらえるようにしたいです。そして、その人がその人の町で同じことをしたり、そういう良い意識の輪が広がっていけばうれしいです。



「地域の行事」

「ボランティア」その言葉の捉え方がこの2年間で私は「面倒くさい奉仕活動」から「楽しい地域の行事」に大きく変わりました。

私は小学校6年生のときに春日市に引っ越してきました。以前住んでいた場所は春日市ほど地域イベントがなく、中学生になって地域イベントと地域イベントに関するボランティアの募集がとて多かったことに驚きました。クリーン作戦もその一つで、初めてクリーン作戦に参加したとき私は、クリーン作戦自体にも驚いていましたが、始めの集合のとき更に驚きました。幼稚園生から高齢の方まで幅広い年代の方が集まって、当たり前のように自分たちの街を協力してきれいにしていたからです。

この件をきっかけに私は、学校で募集がかかるボランティアに興味を持ち、夏祭りなどにも参加をするようになりました。その中で沢山の方とのつながりを持ち、誰かの笑顔を見るたびに、楽しいと感じるようになりました。

その中でも最も楽しいと感じたのは今年の餅つき大会です。当日、私の地区では東中の同じ地区の人も参加していました。他校とはなかなか繋がりはありませんが、この行事で東中の人と協力して作業を行うことで仲良くなることができました。またつき終わったお餅を丸める作業では老人会のおばあさんに「片栗粉はつけすぎると丸めにくくなるから、お餅の端を中に入れ込んで綺麗な丸にしてからつけるのよ。」と優しく教えて頂きました。そのおばあさんとは丸めながら沢山話しをして、この春日市の歴史や昔のこの様子を教えてもらいました。その後私は餅をつきました。餅の付き方や餅の返し方をJAバンクの方や地域の方、参加していた市議会委員の方に教えて貰いながらつきました。つきながら地域の方と雑談をしたり、小学生のサポートとして一緒についたりもしました。そして餅をつく時も、丸める時も、食べる時も色んな人が笑顔で楽しそうで、とても温かく私自身もとても楽しかったです。

この餅つきで餅のつき方や丸め方を学び、他校や小学生、老人会の方、地域の方、市議会委員の方など沢山のひととたくさんの繋がりを持てました。私は運営にこんなに沢山の人が関わっていたことにとても驚き、普段話すことができないひととたくさん話しができて楽しかったです。その中で老人会のおばあさんから「あなたと会えた縁に感謝ね」と言って頂きました。私に教えてばかりだったのに嬉しい、と笑ってくれるおばあさんを素敵だなと思うと同時にこんな「縁」を生み出してくれる地域行事と中学生を受け入れて育てようとして下さる地域の姿勢に、改めて春日市はすごいなと思い、参加させて貰ったことに感謝をしました。

私は中学生や小学生を地域が育てようとする春日市はすごいと思います。そして、新しい出会いがあり、大切なことを学べ、私たちが温かく見守ってくれる地域のボランティアという地域行事に私はこれからも参加したいと思います。



循環することで得られる社会

私は、五月にあった第一回地域清掃活動にて、初めて地域行事に参加しました。私が住んでいるのは桜ヶ丘で、そこにある公園の清掃を行いました。学年ごとに分かれて活動を行い、私は軍手をしてプランターに植えられている枯れた花を抜いて、そのあとに植える花のために熊手で土を耕しました。そして新しい花を植える作業を行いました。作業後に、改めてプランターを見てみるとすごく綺麗になっていて、すっきりとした気持ちになりました。また、地域の方が感謝をしてくれて嬉しくなり、やりがいも感じられました。

私は、なぜこの活動があるのかを考えました。そして私が考えた答えは、二つあります。一つ目は、感謝の気持ちを表すためだと思います。私たちがいつも平和に過ごせているのは地域の方々のおかげです。日頃から地域のきれいさを保つために、清掃をしてくださったり、市民の安全を守るために夜間、防犯パトロールをさせていただいたりしています。その日頃の感謝を伝えるためにあるのだと考えました。二つ目は、市民性を身につけるためだと思います。地域行事に参加して地域の人と関わることで、帰属意識を高めたり、社会性を身につけたり、自己有用感を高めたりすることもできると感じました。それから、この活動がほかの地域や社会全体に広がったら地域は綺麗になり、自然にも良い影響を与えるのではないのでしょうか。また、こういった活動を行うことで人同士のかかわりが増えるのと同時に、町が綺麗だと町の雰囲気や人々も気持ちよく過ごせると思いませんか。

地域清掃に参加しなければ、気づかなかった大きな発見。それは、自分が行った小さな活動が皆が住む町を安心、安全、そして快適な世の中を作っていくという大きな意味をもつことです。だから私は、これからも地域で行われる行事へ積極的に参加し、皆が生活する空間がよりよくなる循環を発見していきたいです。



心の安らぎ

明るい社会とは、どのような社会なのか。僕は、誰かが非行に走るような状況に陥ってしまう前にその人に手をさしのべ、助けることができる社会が明るい社会であると考えている。加えて、そのような社会を実現するためには、誰もが他人を気遣う親切心をもつ事が必要であるとも考えている。そして、親切心を育むという点において、地域清掃活動は非常に優れていると僕は感じた。その理由は主に三つある。

一つ目の理由は、自分ではない誰かのために行う活動だからだ。誰かのために行う活動は、紛れもない親切であり、人と人がつながるきっかけにもなり得る素晴らしいものだと思う。

二つ目の理由は、人通りの少ない朝に行う活動だからだ。人通りが多い時間帯なら無理なく活動できるだろう。しかし、その時間帯は多くの人が公民館や公園を利用する。すると、必然的に利用の妨げになる事が増える。それを防ぐため、活動は朝に行うのである。このことは、誰かに迷惑をかけないため、ひいては優しさから来ている行動なので、これもまた親切心を育むことができるものだと思う。

三つ目の理由は、地域清掃活動は一年間のうち数回行う活動であり、何度でも参加できるからだ。そもそも地域清掃活動に参加する事自体が「地域をきれいにしたい」という親切心から来る行動である。そのうえで何度も地域清掃活動に参加している人がいるとしたら、その人はとても深い親切心を持っていると言えるだろう。また、「何度も地域清掃活動に参加した」という事実は、「自分は親切心を育む事ができた」という確固たる自信につながる。

このような理由から、僕が思う明るい社会を実現するために地域清掃活動は非常に優れていると感じた。

もし仮に明るい社会が実現した場所があったとしたら、そこに住む人々は困った時に助け合うことで心の安らぎを保って生活し続ける事ができるだろう。すると、そこは発展し、成長していく可能性が高まっていくと僕は予想している。



地域清掃を通して感じたこと

突然ですが、皆さんはなぜ地域清掃をするか知っていますか。私が考えたのは、いつもお世話になっている地域の方々に恩返しをするという答えです。私はこの答えを知っていた訳ではありません。「過ごしやすい地域にするため。」と思っていました。確かに「過ごしやすい地域にするため。」という意味もあるでしょうが、地域清掃の活動をする中で、強く感じた答えが「恩返し」だったのです。

五月中旬、私は地域清掃に参加し、公民館の周りを掃除しました。私が住んでいる地域は比較的綺麗な方なのですが、よく見るとごみが落ちていました。時間が限られていたので落ちていたごみをすべて拾うことはできませんでしたが、元々綺麗だった地域がさらに綺麗になりました。その時は、すごく達成感を感じ、やってよかったと思いました。こんなにも素敵な活動、地域清掃はほかの地域、都道府県、国にはあるのかなとふと思いました。私は引っ越しをした経験がないので分かりません。しかし「あったらいいな、なかったらこれからできてほしいな。」と思います。「掃除は正直言って面倒くさい」というのは掃除をする前の気持ちで一瞬だけです。清掃後は爽やかな気持ちになります。

私が爽やかな気持ちになるのは、清掃活動を行ったからだけではありません。活動して気づいたことは、私たちが過ごしやすい地域にするために、日頃から様々な行事や活動を企画、運営してくださる地域の方への恩返しができる場でもあるからです。私は、活動をしながら、この活動の意味を考え、そして答えが見つかった時に大きな喜びすら感じました。この気持ちを他の場所に住んでいる人にも感じてほしいです。視野を広げれば、地域清掃以外にも生活が過ごしやすくなる行事がたくさんあります。しかしそれに対して、生活しづらくなる物騒な事件もたくさんあります。私はまだ学生なので物騒な事件をなくすことはできません。しかし、生活が過ごしやすくなる行事に進んで参加することはできます。この小さな行動が過ごしやすい世の中をつくる一歩になったらいいです。そして、いつかニュースでは、物騒な事件ではなく、生活が過ごしやすくなる行事や行動のことがたくさん流れる日が来てほしいです。



福岡市立福翔高等学校 3年7組 吉田 光貴
「自治会役員を通じて、私が学んだこと」

私は、高校三年生に上がるとともに自治会役員への加入を決めました。理由は二つあります。

一つ目は、中学生の頃から自治会長とお話をする中で、漠然と「自治会活動が楽しそう」と思っていたこと。

二つ目は、三年生へ上がるタイミングでちょうど父親に自治会事業部役員に誘われたことです。

主な活動内容は、地域の行事の準備や片付け、当日の運営などを行っています。

私が自治会役員での活動を通じて感じたことは、普段の学校生活だけでは触れ合う機会のまったくなかった地域の方や高齢者の方々と一緒に活動できることがとても魅力だと感じています。さらに、地域の方々と交流する中で今まで知らなかった地域の歴史などを教えてもらい、自分の住んでいる地域の歴史についても知ることもできました。

活動を通じて地域の方に「ありがとう」と言ってもらえることはとてもやりがいがあり嬉しいです。私の今後の抱負は、自治会役員の活動を続けていきながら、より地域の方々との交流を深め、地域の良さを発信出来たら良いなと思っています。

また、大学で経営について深く学び、地域の困ったことを少しでも無くせるような会社を設立して、世界中の誰もが知っているような立派な経営者になりたいと思っています。



「地域行事に参加して」

僕は、コミュニティ・スクール春日東小学校、春日東中学校に通いました。授業の中で、部伍会活動等を通して、地域行事に参加していました。

高校生になってからは、勉強の時間が長くなり、母や弟たちが地域行事の手伝いに行く姿を見ながらも、地域とは少し遠ざかっていました。

高校3年生になり、進路が確定してからは、教師になるという意識が高まったことで、地域の人々や子どもたちとの関わりを体験して、将来に繋げていきたいと考えるようになり、母や弟と一緒に「そうめん流し大会」や「秋祭り」の手伝いに行きました。

「そうめん流し大会」では、地区の自治会の方、おやじの会の方、子ども会の方々と協力しながら、たくさんのそうめんを湯がきました。大きな鍋で何度も何度もそうめんを湯がき、流れやすいように、また、喉につまったりしないようにという配慮をしながら、そうめんを一口サイズに丸めていきました。

そして、「秋祭り」では、ヨーヨー釣りの担当をしました。小さな子が、一生懸命にヨーヨーを釣ろうとする姿や、釣れた時の笑顔を見ると、僕も嬉しい気持ちになりました。

一つの行事を開催するにあたって、多くの方が事前に準備をしてくださっていることや、地区のたくさんの人が参加している姿にも目が行くようになり、達成感や満足感を味わうことができました。

それから、地域行事の手伝いに行ったことで、数年ぶりに小中学校の同級生に会うことができました。再会がとても嬉しく、話しながら秋祭りの雰囲気も一緒に感じることで、さらに楽しい時間になりました。

これからも、行事の時には手伝いに行き、地域の人との関わりを楽しみ、季節ごとの行事についても、学びを深めていきたいと思います。



”善意だけでは続かない”。——かつては私も、そう考えるうちの一人でした。

私の参加している「コミュニティスペース 春日原食堂」は、2ヶ月に1度、春日原公民館で開催されています。主な活動内容は提供する食事の調理と配膳、そして会場の片付け。来場者は100名になる日もあります。

ボランティアといえば、やはり一番に連想するのは報酬がなく無償で活動をするということ。しかし私は、果たして本当に善意だけで活動が続くのか、ボランティアは誰かの犠牲の上に成り立っているのではないかと疑問を抱いていました。実際、サービス残業や無賃労働といった「やりがい搾取」は度々大きな労働問題として取りあげられます。「無給で働くボランティアにも負荷がかかっているのではないか」。

そんな考えを変えたのは、笑顔で生き生きと活動するボランティアの方々と公民館を訪れた優しい地域の人達、そして、愛情が込められたご飯の良い香りでした。

「ごちそうさま、ありがとう」「また来てね」あたたかい声が飛び交い、地域が一つになるこの場所が大好きになりました。

春日原食堂について興味を持った私は、食堂の経営面についても主催者のとんちゃんに話を聞いてみることにしました。とんちゃんは、「活動費は春日原商店会に協賛を募り、活動自体も無理のないペースで行うことで参加者の負担がないように工夫している。私は子どもの時、わけあって寂しい思いをすることが多く、楽しくご飯を食べる仲間が欲しかった。ここでは、誰かが可哀想だから料理を提供するのではなくて、地域みんなで楽しく過ごせる時間を共有することに意味がある。そんな食堂にしたいと思い、コミュニティスペースという名前をつけた。活動を長く続けるために大切なのは、自分も含め負担が一人に偏らないよう、この想いを”バトンタッチ”していくことだ。」と教えてくれました。

参加者だけでなく、ボランティアの主催者、活動者、そして活動に関わった全ての人が笑顔になれるような仕組み。とんちゃんの言っていたことは、ボランティアの本来の姿だと心から感じました。

さて、身近なボランティア活動と聞いて、皆さんはすぐに何か思いつくでしょうか。例えば、お馴染みの「赤い羽根共同募金」なら、その寄付金がどこに使われているかはご存知ですか？つい最近、学校でクラスメイトから「何か良いボランティアない？」と声をかけられました。勿論、ボランティアをしている友人は他にも何人かいます。でも、普通に生活しているだけでは、ボランティアがどこでどのような活動をしているかについて知らない人がほとんどなのです。ボランティア活動の存在自体が身近に感じられていないこともまた、私は大きな課題のひとつだと思っています。

勿論、活動に参加することもボランティアを身近に感じるきっかけになります。しかし、必ずしも全員がそこまでする必要はないのです。まずは、ボランティアについて知ること、調べること。例えば、普段私たちがテレビで何気なく目にしている世界大会もボランティアの協力なしには開催できません。「縁の下での力持ち」ということわざがありますが、ボランティアはまさにそれです。当たり前のこと・普段私たちが気にも留めていないような所にこそ、誰かの想いがのせられているのです。次に、その情報を誰かに伝えること。活動を直接手伝わずとも、それがボランティアにとって大きな助けとなります。

こうやって持続可能なボランティア活動が広まることで、社会はきっとより良くなると私は信じています。

”善意だけでは続かない”

——確かに、元手が無かったり負担が一人に偏ってたりしては継続的な活動を実現するのにも無理があります。しかし、道はそれだけではないのです。持続可能なボランティアのあり方について市民一人一人が目を向け、そのための様々なアイデアを広めることで地域はより良くなります。

私はこのコミュニティスペースでの経験を通じ、今年の夏に開催される全国高等学校総合文化祭で弁論をする機会をいただきました。本番は賞や順位にとらわれず、聴衆に伝えたいことが伝わるよう練習して私自身もこの気づきを広めていきます。

